

宇宙開発についての一つの考察 One thought about space exploration

伊勢田哲治
Tetsuji Iseda

マーズ・ワン計画(Mars One project)

- 民間による火星移住計画(2023年に出発予定)
- 火星に行って帰ってこない
- 技術的には往復ミッションよりかなり楽なので実現性は高い
- 地球に帰ってこれないという条件にもかかわらずすでに78000人の応募があった(アメリカ17000人、中国10000人など)

開拓者の倫理(settler ethics)

- この計画はさまざまな観点から検討できると思うが、ここでは開拓者の倫理という観点を考える。
- こうした民間計画が出始めた以上、そろそろ考え始めないといけない問題がある:
地球以外の惑星の環境は自由に改変してもよいのだろうか? Can we make changes to the environment of planets freely?

Rolstonの基準

- Holmes Rolston IIIという倫理学者は惑星の自然の保存についていくつかの基準を提案している
 - 自然に固有名がつくような場所は尊重する
 - 極端な場所は尊重する
 - 歴史的な価値のある場所は尊重する
 - これから何かおこりそうな場所は尊重する
 - 美的価値のある場所は尊重する
 - われわれの物の見方を変えてくれるような場所は尊重する

他の基準の可能性

- 他にもきっと「こういう場所は手を付けずにおかなくてはい」というのはきっとあるはず。
 - 長い期間をかけて形成されてきた、複雑なしくみが働いている、一度壊すともともどせない、などの理由も手を付けなくて保存する理由になりそう
- 実は火星という星全体がここに挙げたような条件を満たしそう
- →早くガイドラインを決めなくていいのだろうか?